伝承で育む

ーイノベーションフィールドがもたらす共助と創造ー

Keywords
地域再生　関係人口　伝承
広場　ラウンドアバウト 学生プロジェクト

DZ18650　鈴木　雄大

1.　はじめに

現代地方都市における行政による地域課題解決をしている事例は少ない。それらは民間が主体となる地域再生への取り組みが少ない点、またその地域の定住者、移住者、関係人口それぞれの立場に寄り添った考え方や取り組みが行われていないからではないだろうか。

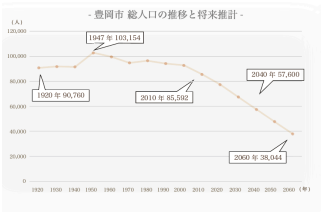
2.　研究背景

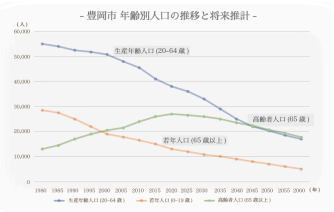
2.1　歴史的建造物保全・古民家改修活動

筆者は兵庫県豊岡市で学生団体を立ち上げ、空き家再生の活動をしている。本地域に深く関わっている中で地域の魅力を感じる一方で地域課題を目の当たりし、学生の立場の私たちが地域課題解決のために実践できる方法はないかと考えた。

2.2　地域課題

（1）若年人口の減少/産業の空洞化





（2）空き家・空き地問題

- 豊岡市人口に近い自治体との空き家数比較 -

市区町村名	総人口	空き家数
伯江市（東京都）	83,257 人	4,190（戸）
近江八幡市（滋賀県）	82,092 人	4,050（戸）
豊岡市（兵庫県）	**80,942 人**	**5,850（戸）**
大仙市（秋田県）	80,459 人	3,440（戸）
岩見沢市（北海道）	80,410 人	5,260（戸）

【2018 年統計調査より】

（3）地域への誇り/定住者移住者の気持ちの歪み

豊岡市の住民意識の実態を調査するため現地でインタビュー調査(対象：地元中学生、定住者、移住者、中貝宗治豊岡前市長)を行った。豊岡市では義務教育でふるさと教育が行われており若者が地域について考えるきっかけづくりになっていることがわかった。また、中貝前市長の失職をきっかけに元々支持していた地域住民がまちづくりの変化に対する危機感から地域へ主体性を生む効果を出している。そして現在は移住者がまちづくりに熱心な現状があり定住者移住者のお互いに対する気持ちに歪みができていていることが課題として挙げられる。

（4）大豊岡構想の欠点

1920年代に行われた大豊岡構想で開発された寿ロータリー(ラウンドアバウト)が都市計画における課題として取り上げる。開発当初は杞柳が発達したことで交通量が多かった一方で、バイパス整備や豊岡病院の移動により人の流れが変化し現在ロータリーは閑散として、地域の主要動線として使われなくなった。

3.　研究目的

兵庫県豊岡市の技術と伝統の継承を基盤に地域課題解決で新たな創造の場所を作り地域再生を目指す。

4.　対象敷地 -兵庫県豊岡市-

4.1　対象地概要

豊岡市(当時の豊岡町)は大正時代半ばから昭和時代初期にかけて大豊岡構想と近代化構想を行なった。この構想により円山川の改修工事、低湿な水田地域の埋め立て、区画整理や耕地整理によりグリッド状の道路網の整備、駅前から延びる斜道路の寿通りやロータリーの整備が行われた。また、同時期である1925年には北但大震災により甚大な被害を受けた。震災後、復旧ではなく復興を目指し、豊岡では復興建築群として洋風、擬洋風の防火建築帯が整備され、現在でも近代都市計画遺産として街並みを形成している。

4.2　敷地分析

敷地は豊岡市街地に位置する旧国道425号ロータリー(近畿の国道では唯一のロータリーであった)にあり、豊

岡地域で上下水道の敷設に貢献した中江種造の銅像もあるシンボリックな場所に面するため、地域活性化の拠点として認知されやすい場所であると考える。

5. 計画概要

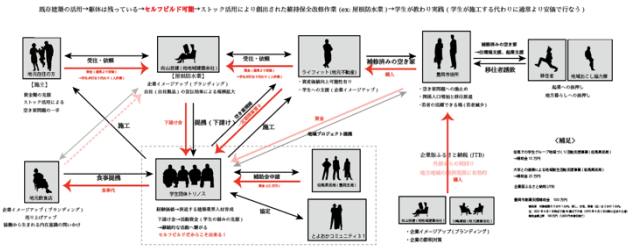
地域課題分析を通して５つの地域課題(「若年人口の減少」「産業の空洞化」「空き家・空き地再生問題」「地域への誇り」「定住者移住者の気持ちの歪み」)を設定した。それらの地域課題を踏まえて筆者は三種類の技術・伝統継承を基盤に地域課題解決、新たな創造の場形成を目指したモデルを提案する。そして、６つ目の地域課題として取り上げた都市計画課題(大豊岡構想の欠点:2.2(4)参照)解決に向けて、イノベーションスクエアを提案するとともに3つのモデルを推進する過程のデザインの設計も行う。

5.1 プログラム

・敷地面積：㎡
・設計物：イノベーションスクエア
・用途：リビルディングセンター（400㎡)、地域留学生宿泊所（350㎡)、地元大学生シェアハウス（350㎡)、若手起業家テナント(㎡)、地元飲食店ポップアップ食堂(㎡)、地域案内所(㎡)、起業家シェアハウス（150㎡)、シェアオフィス(㎡)、コワーキングスペース（150㎡)、地域物産展 100㎡、地域案内所()、技術伝承館(㎡)、クリーニング(既存)、お好み焼き酒場(㎡)、蕎麦屋(㎡)

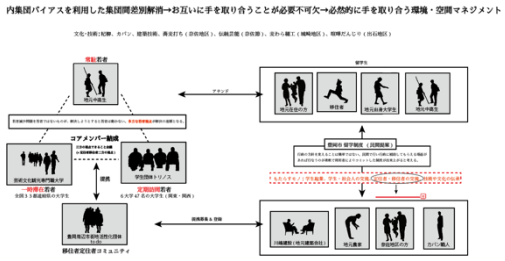
5.2 地域課題解決と創造の場-創出モデル

（1）ストック活用推進モデル



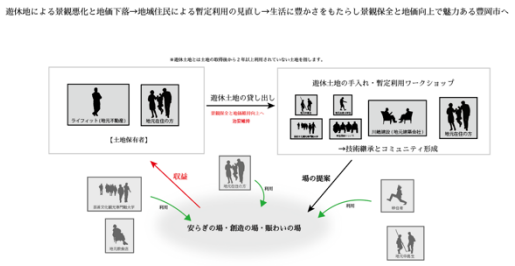
本モデルは空き家再生を継続的に行える循環を目指したものになる。既存建築の活用はセルフビルドが可能というメリットを活かして技術継承を基盤に地元企業や行政、地域住民、若者等がお互いにメリットのあるシステムとなっている。

（2）ソトウチ仲良し推進モデル



異なるコミュニティが打ち解けるには共同の場を提供することがお互いに手を取り合うことに繋がる実証データ(研究：Shelf,et al.,1988)がある。本モデルでは、内集団バイアスを利用した豊岡市の地域留学制度を民間で作ることにより地域課題解決とともに新たな創造を目指す。

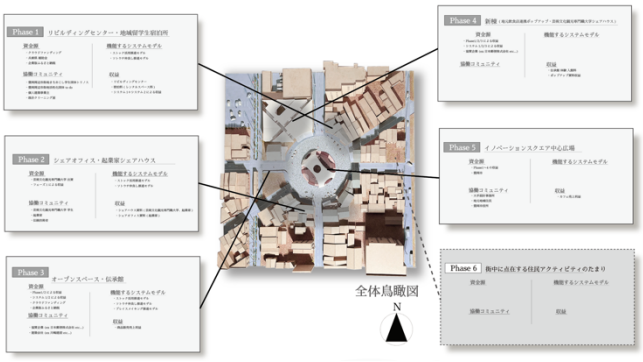
（3）プレイスメイキング推進モデル



地域に点在する遊休土地や駐車場としての土地の暫定利用を見直し、地域住民の求める場や生活風景の豊かさを創出するためにプレイスメイキングを基盤とした、より地域に有効的な土地の活用を再提案することを目指したシステムモデルとなっている。

5.3 過程のデザイン

本計画ではフェーズごとの計画を行う。

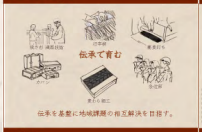


6. 終わりに

私自身、たまたまのご縁があり空き家再生事業に携わらせて頂いており豊岡市を中心としたお世話になっている方々には感謝しかない。本研究を通した設計提案を実際に地域住民の方々に提案すること少しでも地域にとって前向きに働くものになれることを願う。

Background

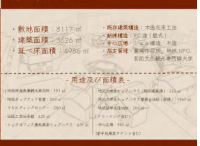
Concept



Proposal

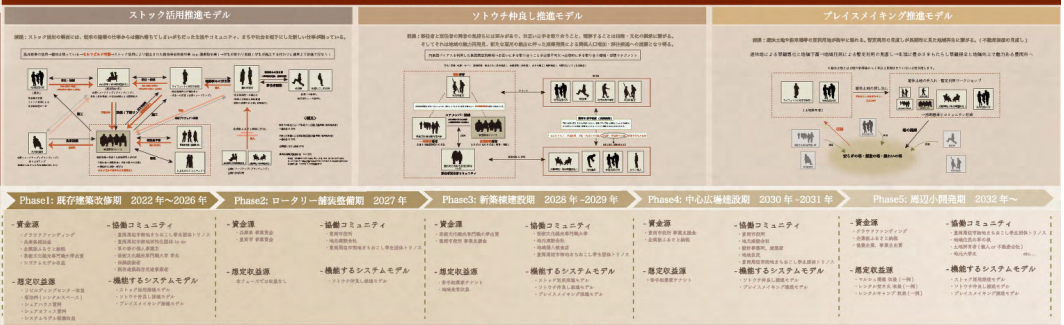
Site

Overview

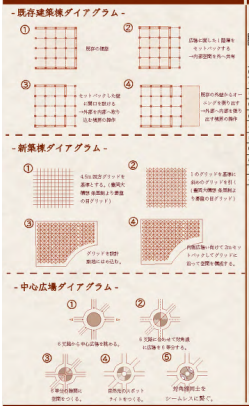


協働コミュニティ資金運営計画

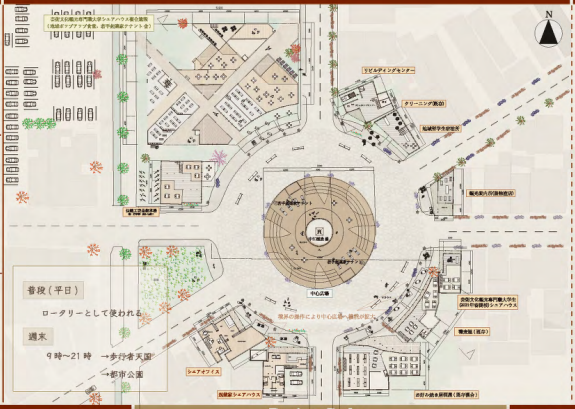
豊岡市 地域課題解決推進モデルの提案 - 相互作用による産業の再興と地域の創造 -



Diagram

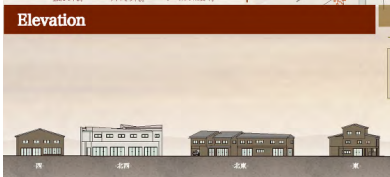


Whole Plan

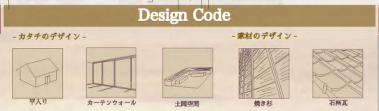


2F 3F Plan

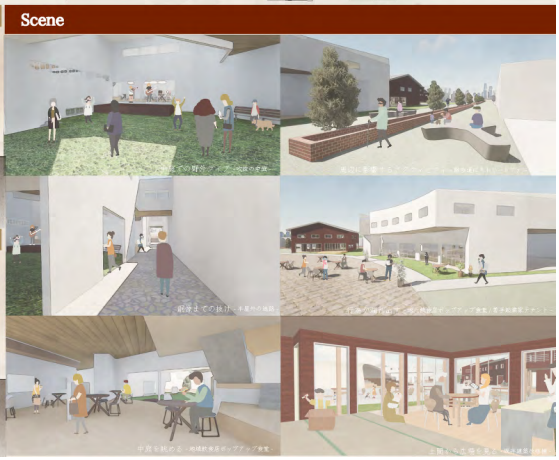
Elevation



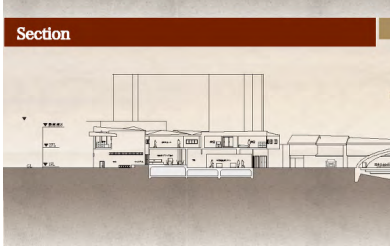
Design Code



Scene



Section



境界の操作